地域と密着

希望に応える医療へ

独立行政法人 地域医療機能推進機構

群馬中央病院

診療科紹介

JCHO
Japan Community
Health care Organization

院長挨拶

内藤　浩
院長兼地域医療連携センター長

平素より、JCHO群馬中央病院の運営にご協力いただき、地域医療機関の皆さまには深く感謝しております。

本年度の「診療科紹介」が完成いたしましたので、お届けさせていただきます。各診療科が工夫を凝らして記事を作成してくれていますので、ご一読いただき、当院をご利用いただく際の参考にしていただければ幸いに存じます。

皆さまご承知のごとく、当院は地域医療を支えることを目的に設立された独立行政法人です。団塊の世代が後期高齢者となる、いわゆる「2025年問題」がいよいよ来年となり、地域包括ケアシステムの構築が急がれています。このシステムの中での当院の役割は、地域の医療、介護・福祉施設、行政と緊密に連絡を取り、地域に求められるサービスを、効率よく、そして高い水準で提供していくことです。

そのためには、将来にわたる地域のニーズを把握分析し、皆さまのご要望に応えられる形で当院の組織改革を進めることが何より大切と考えています。当院へのご提言、ご要望等ありましたら、忌憚なくご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

新型コロナ感染症が5類となり、人の流れも戻ってきました。当院といたしましても、「顔の見える」形での情報発信を順次再開して参りたいと存じます。皆さまと一緒に、より良い地域医療を展開して参りたいと存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

群馬中央病院の基本方針

人権の尊重と人間愛を基本とした医療・介護を行い、
地域の方々の健康と福祉の増進に寄与する。

地域医療・地域包括ケア・介護の連携の要として、
超高齢化社会における多様なニーズに応え、
安全・安心・信頼を要とした医療と介護を提供する。

地域の医療・福祉機関との連携を密にし、
地域医療における中核病院としての使命と役割を担う。

透明性が高く自立的な運営のもと、
常に医療・介護水準の向上に努める。

病院キャッチフレーズ

『笑顔で言葉をもって 患者さんの身になって』

- 02 地域医療連携センター／地域包括ケアチーム
- 04 内　科
- 06 小児科
- 08 糖尿病センター
- 10 消化器・肛門疾患センター
- 13 神経内科
- 14 整形外科
- 16 産婦人科
- 18 眼　科
- 19 耳鼻咽喉科
- 20 歯　科
- 21 放射線科
- 22 病理診断科
- 23 皮膚科

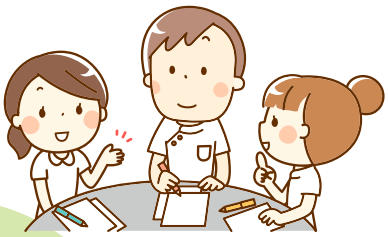
地域医療連携センター

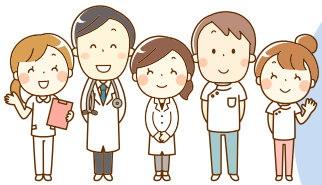
▶内藤 浩〈地域医療連携センター長〉／谷 賢実〈地域医療連携センター長補佐〉

地域医療連携室

地域医療連携室では、地域の医療機関との窓口として、紹介患者の入院・診察・検査等の受け入れを円滑に行い、検査結果や返書管理等の情報発信・交換を迅速におこなっています。

また、地域の医療従事者や一般の方を対象とした、講演会やカンファレンスなど、様々な勉強会を企画開催し、最新医療情報や病気の予防、健康増進についての情報を発信しています。





地域医療連携室
紹介患者対応
診察予約
救急依頼対応

医療福祉相談室
医療福祉相談
退院支援
福祉機関との調整

患者支援室
入退院センター
看護相談
在宅支援
入退院調整・説明
ER機能

医療福祉相談室

患者さんや家族からの心理的、社会的な相談窓口としてあらゆる相談に応じています。また、転院のための医療機関選定や退院後の社会福祉施設等の調整支援など、関係機関との連携をもとに患者さんの退院後の生活を見据えた支援をおこなっています。

患者支援室

入退院センターの機能を持ち、入院時より患者さんに寄り添い退院支援を円滑に行えるよう院内外の多職種と連携しています。当院では短期入院を除くすべての入院患者さんに対し入退院スクリーニングを実施することで、退院支援が必要な方を抽出し、安心して退院後の生活が行えるよう支援しています。

外来から在宅まで、切れ目のない安心したサポートを
多職種協力のうえ、全力でお手伝いします。

◆ 地域医療連携センター目標 ◆

- ■地域医療連携・地域包括ケアの推進
- ■多職種協働によるチーム医療の推進

地域医療連携システム「メディマップ」

当院では、登録医の先生方との二人主治医制を推進するため、地域医療連携システム『メディマップ』を導入しています。

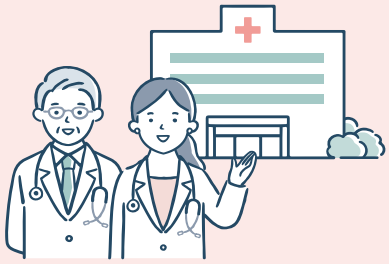
メディマップでは、登録医の先生方の受け入れ可能な診療内容の情報を登録し、その内容を院内で共有することで患者さんへ充実した形で発信することができます。かかりつけ医をもたない外来患者さんへ、逆紹介先をご提案するときもこのシステムを活用しています。

なお、詳細について、必要があれば訪問してご説明を差し上げることも可能ですので、何なりとご連絡下さい。

今後とも、当院の地域医療連携の推進に、一層お力添え頂けますよう、よろしくお願い致します。

連携医（地域連携医療協力機関）の紹介ページが充実しました

患者さんが、当院ホームページから、診療科、区名によって連携医を検索し、連携医ごとのご紹介ページを見ることができるようになりました。連携医のご紹介ページでは、住所や電話番号、ホームページURL、地図などのほか、ご回答いただいた「医院の特徴や患者さんあてメッセージ」を掲載しています。



内　科

▶診療体制・スタッフ紹介／今井 邦彦〈内科主任部長〉／田嶋 久美子〈内科部長〉

〔スタッフ〕

（常勤）　今井邦彦、田嶋久美子、羽鳥貴、吉田尊、阿久澤暢洋、大沢天使、須賀俊博、長谷川典子、田部井亮太

（内科・循環器内科・呼吸器内科非常勤）

宇野翔吾、大山啓太、小保方優、解良恭一、北原陽之助、小池陽子、齋藤勇一郎、佐藤浩子、田村峻太郎、蜂巣克昌、武藤壮平

当院内科は、午前・午後（午後外来は要予約）に外来を行っております。平日の午前中に総合内科外来を設置し、初診の患者様と紹介患者様の診療に対応しています。当院の総合内科専門医のほか、群馬大学総合診療部などから派遣された医師が初期診断・治療にあたります。より高度な治療が必要な場合には院内の他科と連携し適切な検査･治療がなされるようマネージメントを行います。当科の専門外来としては、平日午後に呼吸器専門外来を開設しています。群馬大学と前橋赤十字病院の呼吸器内科専門医にご協力をいただき、呼吸器感染症・肺悪性腫瘍・アレルギー性疾患・喘息などに対応しています。

入院患者さんの診療では、内科・循環器内科・神経内科が毎週、カンファレンス・回診を行っています。人口の高齢化に伴い、当院の入院患者様も高齢化し、複数の疾患を抱えていることが多いですが、内科常勤スタッフ９人の内、６人が日本内科学会総合内科専門医を取得しており、各自の専門分野のほか、幅広い疾患に対応しております。また、外科・整形外科など他科入院中の患者様も内科疾患の対応が必要なときは、連携し治療にあたっております。

各医療機関の先生方からのご紹介に際しましては､｢速やかな診療・適切な治療を行う｣を基本姿勢として医療を継続しております。

今後とも当院内科をよろしくお願いいたします。

▶医師紹介

●医務局長兼健康管理センター長兼内科主任部長　今井 邦彦

昭和 62 年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本医師会認定産業医／日本人間ドック学会健診指導医・健診専門医／人間ドック認定医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

【専門分野】循環器内科、一般内科

●内科部長　田嶋 久美子

平成4年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本糖尿病学会専門医・研修指導医／日本医師会認定産業医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医

【専門分野】糖尿病

●内科医長　阿久澤 暢洋

平成7年卒（医学博士）／日本循環器学会循環器専門医／日本内科学会認定医・総合内科専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／認定病院総合診療医 / 指導医 (日本病院総合診療医学会）／日本DMAT隊員 JPTEC Provider ／日本救急医学会 ICLS ／ BLS コースインストラクター 日本専門医機構総合診療専門研修プログラム特認指導医

●内科医員　長谷川 典子

平成6年卒／難病指定医

循環器内科・心臓カテーテル室

▶羽鳥 貴〈循環器・内科部長〉

当院の循環器内科・心臓カテーテル室は、ガイドライン・エビデンスに基づいた、安全で質の高いカテーテル検査・治療の提供に取り組んでいます。羽鳥・吉田・須賀・田部井・須賀裕（非常勤）の5名で、心臓カテーテル検査・治療を行っています。

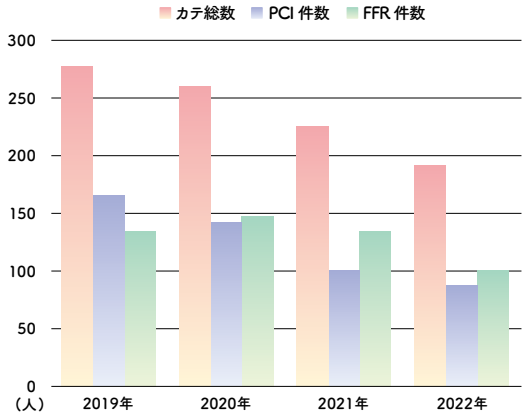
2023年度は田部井医師が新たに赴任・増員となりました。田部井医師は心臓に加え、下肢の閉塞性動脈硬化症など末梢血管へのカテーテル治療（EVT）に精通しています。

2020年度に当院カテ室は日本心血管インターベンション治療学会・研修関連施設に施設認定され、2022年度から新たにロータブレーター治療が開始されました。

2019年度に心臓カテーテル室がリニューアルされました。最新のCanon製アンギオ装置が導入され、より少ない造影剤、より少ない放射線被ばくで、より鮮明な画像を得ることが可能となっています。心臓カテーテル治療に際しては、冠動脈造影による形態学的狭窄だけでなく、機能的に心筋が虚血に陥っているか調べるFFR検査も行い、ガイドライン・エビデンスに沿った治療を心掛けています。

2014年度より低侵襲で、術後合併症の少ない手首からのカテーテルを導入し、2022年度は心臓カテーテル全体の86%を手首から実施しています。

今後も安全で質の高い循環器診療を心掛けていきます。引き続き当院・当科へのご紹介よろしくお願い申し上げます。



●循環器・内科部長　**羽鳥 貴**

平成5年卒（医学博士）／日本循環器学会循環器専門医／日本内科学会認定医／インフェクションコントロールドクター／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●循環器・内科医長　**須賀 俊博**

平成14年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医／難病指定医

【専門分野】狭心症・心筋梗塞に対するカテーテル治療

●循環器・内科医長　**吉田 尊**

平成7年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本循環器学会循環器専門医／身体障害者福祉法指定医

●循環器・内科医員　**田部井 亮太**

平成19年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医／日本脈管学会脈管専門医・指導医／腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医（Zenith, AFX, Aorfix, Excluder, Endurant）／浅大腿動脈ステントグラフト実施医

【専門分野】虚血性心疾患、末梢動脈疾患、大動脈疾患、心血管カテーテルインターベンション

小児科

▶診療体制・スタッフ紹介／河野 美幸〈小児科部長〉

〔スタッフ〕

常勤医：田代雅彦（名誉院長）、河野美幸（部長）、水野隆久（医長）、武井麻里子（医員）、春日夏那子（医員）、平形絢子（医員）、坂本康大（医員）、土橋里美（医員）、清水佑基（医員）、長谷川芽衣（医員）、山下真沙美（医員）、須永康夫（医師）計 12 名

〔特色〕

平素より大変お世話になっております。

小児科は、４月から新しいメンバーが入り、12 名体制にて診療しております。外来診療では、午前は上級医が紹介患者を中心とする一般外来を、救急車対応は若手医師中心に対応しています。午後は予約制の外来で、循環器外来･神経外来･腎臓外来･アレルギー外来･発達フォロー外来 それぞれ医師の退院後のフォロー外来を行っております。循環器外来は田代先生を中心に、学校健診や先天性心疾患、川崎病 follow など大きく貢献されております。また、予防接種・乳児検診は常勤医が対応しております。

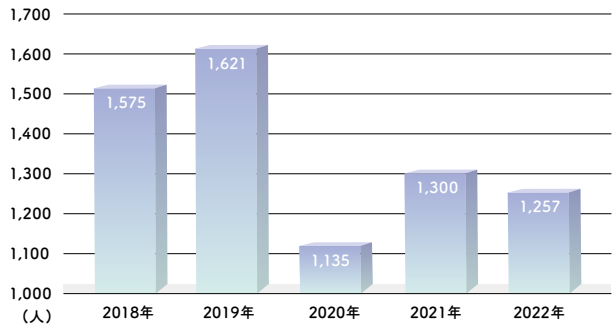
入院病床は、一般小児病床 40 床、新生児病床 16 床となっております。一般小児病棟は、2022 年度 1,257 人の入院に対応しました。定期予防接種が充実され、感染症罹患の機会や重症化し入院する患者さんは減少しております。しかし、RSV 感染者は春から夏にかけて流行がみられ、多数の入院患者がおり、季節性がなくなってきた印象があります。急性感染症や川崎病、食物アレルギー、低身長や体重増加不良などの負荷試験といった比較的短期入院の疾患などの他、腎疾患、神経性食欲不振症、神経疾患といった学童期の長期入院患者にも対応しております。当院では、養護学校が併設され、連携をとりながら心身の成長と療養を心がけています。

新生児は、地域周産母子センターとして、院内外から 365 日受け入れをしております。2022 年度は 167 名の入院がありました。当院では、年間 500 例前後の分娩があり、若年・高齢出産、合併症妊娠なども多く、定期的に周産期カンファレンスを行い、連携をとりハイリスク出産に対応しております。胎児 27 週以上を対象とし、先天奇形症候群や染色体異常の児など、退院後の医療ケアやリハビリテーションが必要になる患者さんもおり、患者さんと家族を中心とした医療を目指し、チーム医療を心がけています。

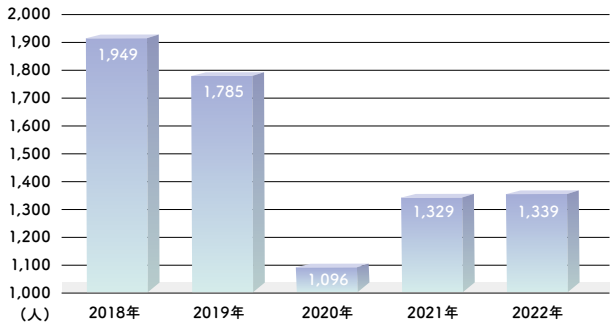
医療的ケアが必要な児の退院時や、複雑な家族環境で環境整備が必要な場合には、院内外の多職種で情報共有の場を持ち、連携を大切にしています。

今後も地域の基幹病院として新生児を含めた小児に充実した医療を提供できるよう、日々努力して行きます。今後もご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

入院患者総数



紹介患者数



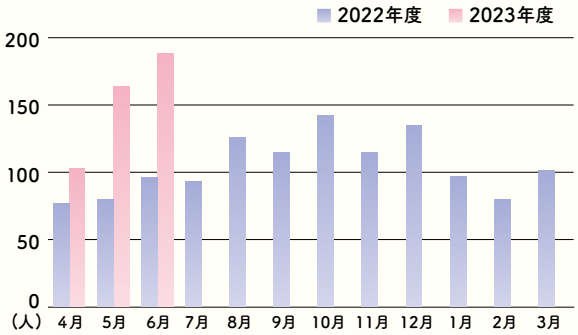
長く続いたコロナ過の影響で、一般の方でも感染対策が徹底され、様々な感染症に対し免疫が低下したことにより、新型コロナ５類扱いとなった今様々な感染症が流行しています。

少子化や、色々な疾患の予防、治療法が確立し、小児の入院病床が減少しつつありましたが、今年度に入り大きな変化がみられています。

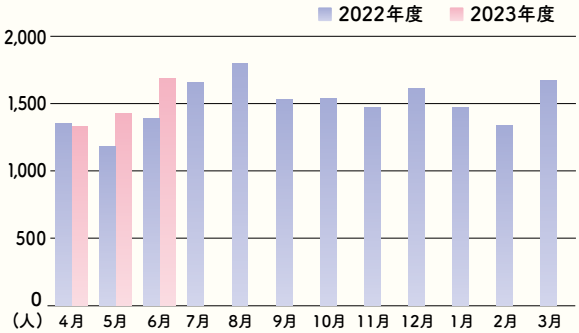
当院の 44 床の小児一般でも、まかなえないこともしばしばあり、他病棟でも小児患者の入院受入れを許容してもらい、病院全体で協力して体制を整えております。

今年度、群馬大学からのローテーション医師も増員となり、マンパワーの強化があったからこそ、今の対応ができていると思っております。連携施設の先生方には、平素よりご紹介頂く患者さんとの連携に対し、大変お世話になっております。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

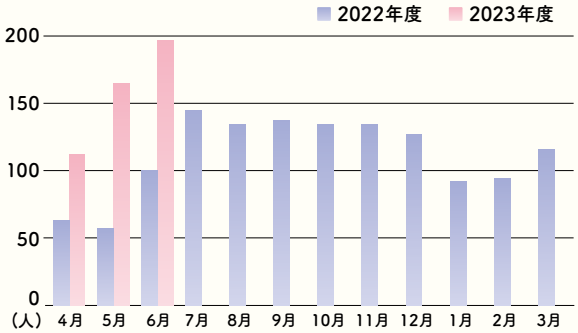
月別新入院患者数



月別外来患者数



紹介患者数



〈小児科〉医師紹介

●名誉院長　**田代 雅彦**
昭和 51 年卒（医学博士）／小児慢性特定疾病指定医
【専門分野】一般小児、小児循環器

●小児科主任部長　**河野 美幸**
平成5年卒／小児科専門医・指導医／周産期専門医（新生児）／小児慢性特定疾病指定医／ NCPR インストラクター／難病指定医

●小児科医長　**水野 隆久**
平成 11 年卒／日本小児科学会専門医・指導医／日本小児科学会認定医／小児慢性特定疾病指定医／難病指定医
【専門分野】呼吸器アレルギー

●小児科医員　**武井 麻里子**
平成 22 年卒／小児慢性特定疾病指定医／難病指定医／小児科専門医

●小児科医員　**春日 夏那子**
平成 23 年卒

●小児科医員　**平形 絢子**
平成 22 年卒／日本小児科学会専門医

●小児科医員　**坂本 康大**
平成 30 年卒

●小児科医員　**土橋 里美**
平成 31 年卒

●小児科医員　**清水 佑基**
平成 31 年卒

●小児科医員　**長谷川 芽衣**
令和3年卒

●小児科医員　**山下 真沙美**
令和3年卒

●非常勤医師　**須永 康夫**
昭和 59 年卒（医学博士）

糖尿病センター

▶診療体制・スタッフ紹介／根岸 真由美〈糖尿病センター長兼糖尿病・内分泌内科主任部長〉

〔スタッフ〕

根岸真由美（糖尿病センター長兼糖尿病・内分泌内科主任部長）
中島康代（副糖尿病センター長兼糖尿病・内分泌内科部長）
須賀俊博（循環器・内科医長）
登丸琢也（非常勤）
有山泰代（非常勤）

外来療養指導：看護部6名、栄養管理室7名、
薬剤部3名、検査部4名
糖尿病認定看護師：1名
特定行為看護師：2名
日本糖尿病療養指導士（CDEJ）：16 名
群馬県糖尿病療養指導士（G-CDEL）：10 名

〔特色〕

2017 年4月より日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ群の認定を受けた糖尿病センターを開設し、現在に至っています。2021 年 10 月より中島康代医師が常勤医として加わりました。群馬大学勤務の経験を活かし、糖尿病や内分泌疾患の専門的診療に従事しています。常勤医３名の他、有山医師（糖尿病：火曜日午前）と登丸医師（内分泌：金曜日午前）の２名が非常勤医として勤務し、質の高い診療ができるよう研鑽を積んでいます。

当センターの特徴は連携診療です。糖尿病と初めて診断された患者様や糖尿病治療中でコントロール悪化の患者様をかかりつけ医の先生方からご紹介いただき、外来で合併症評価を行った後、クリニカルパスを用いて２週間の予定入院を行います。入院中は食事療法、糖毒性解除のためのインスリン療法、血糖測定、糖尿病教室への参加などを行います。各指導は看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など多職種によるチームで担当します。毎週カンファレンスを行い、情報を共有し、患者様の退院後の療養に向けて改善策を協議します。有効性が非常に高い２週間入院を基本としていますが、患者さんの実情に合わせて短縮パスも使用しています。

毎年、各職種のスタッフが日本糖尿病療養指導士（CDEJ）や群馬県糖尿病療養指導士（G-CDEL）を取得してスキルアップし、看護部門では糖尿病認定看護師と特定行為看護師が従事しています。

退院約２週間後に外来で、自宅での療養状況をチェックし、インスリンの微調整や栄養指導、看護師による療養指導を施行します。その後、ご紹介いただいたかかりつけ医の先生方に逆紹介を行います。

当院では約４か月後に栄養指導、その後は約半年毎に栄養指導の他に血管系合併症のチェックや腫瘍のスクリーニングを行っています。検査は当院で行いますが、薬剤処方等はかかりつけ医の先生方にお願いしております。また早期腎症の段階から腎症予防指導を行い、糖尿病腎症の進展や透析への移行を防止するよう努めています。足のチェックにて必要時は皮膚科紹介等行い、治療後に火曜日午後のフットケア外来で予防的フットケアを施行しています。

当センターへの受診時にかかりつけ医の先生方から診療情報提供書をいただいておりますが、薬手帳、糖尿病連携手帳、自己血糖測定ノート（施行者のみ）を持参いただければ、簡潔な紹介状フォームのチェックだけで結構です。連携室に用意しておりますので、どうぞご依頼ください。

令和4年度

紹介患者数	722 名
新規入院数	130 名
インスリン導入	149 名
外来栄養指導	1,177 件
腎症予防指導	155 件
フットケア（合併症管理）	85 件

▶医師紹介

●糖尿病センター長兼糖尿病・内分泌内科主任部長　**根岸 真由美**
昭和 62 年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本糖尿病学会専門医・研修指導医／日本医師会認定産業医／研修指導医／難病指定医

●副糖尿病センター長兼糖尿病・内分泌内科部長　**中島 康代**
平成 11 年卒（医学博士）／日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本糖尿病学会専門医／日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医／内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医／日本甲状腺学会専門医

▶糖尿病センター開設

群馬中央病院 糖尿病センター

他部署・多職種で連携

- 教育入院
- 栄養指導
- インスリン指導 等

連携医療機関

- 毎月の投薬
- 体調管理

地域連携パスの作成

糖尿病地域連携パス

連携パスを簡単に運用するために

▶逆紹介システム

- リーフレットを利用
- 患者さんにあった連携医を紹介
- 管理料、指導料の算定説明

連携医療機関

かかりつけ医のない患者

連携室

▶病院と診療所での役割

診療所

- 定期検査
- 定期処方

病　院

- 初診時に療養指導
- 約半年毎の定期的メインテナンス
- 早期インスリン導入・指導

消化器・肛門疾患センター

外　科

〔スタッフ〕

常勤：内藤 浩（病院長兼消化器・肛門疾患センター長兼地域医療連携センター長）、福地 稔（外科主任部長）、谷 賢実（外科部長兼地域医療連携センター長補佐）、深澤孝晴（医長）、斎藤加奈（医長）、木暮憲道（医長）、髙橋宏一（医員）、上原弘聖（医員）　計８名

〔特色〕

令和５年度の外科は常勤医８人の診療体制で消化器外科全般および一般外科の治療に対応しています。乳腺・甲状腺、呼吸器、肝胆膵疾患については、群馬大学附属病院外科診療センターのスタッフによる専門外来を開設し、大学病院外科と連携して治療にあたらせていただいております。常勤医のうち、日本外科学会専門医が７人、日本消化器外科学会専門医が４人、日本消化器病学会専門医が４人、日本消化管学会専門医が５人であり、消化器内科や多職種の医療スタッフとの緊密な連携のもとに専門性の高い安全な治療を実践しております。

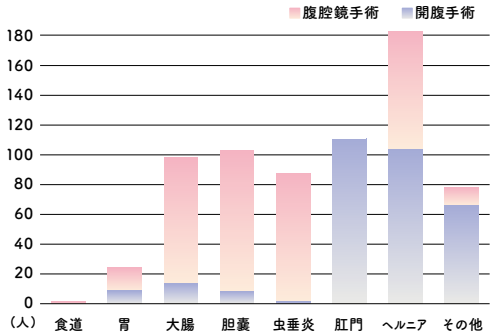
令和４年度の手術件数は 686 件であり、低侵襲な鏡視下手術件数が 371 件と全体の 65% を占めています（肛門疾患は除く）。食道、胃、大腸の消化管疾患では、全体の 81%（123 件中 100 件）に鏡視下手術が行われています。胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）や直腸腫瘍に対する経肛門的内視鏡下手術（TEM）等の先端的な手術も適応症例に対して行っています。また、消化器癌を中心とした化学療法および緩和医療にも取り組んでおります。消化器癌の化学療法件数は 1,267 件であり、抗癌剤とともに分子標的薬や免疫チェックポント阻害薬も積極的に導入しています。最新の標準化学療法に対応できるように個々の患者さんに適した治療を提供して参ります。今後も診療ガイドラインを準拠した質の高い医療を提供できるように診療体制を整えて参ります。

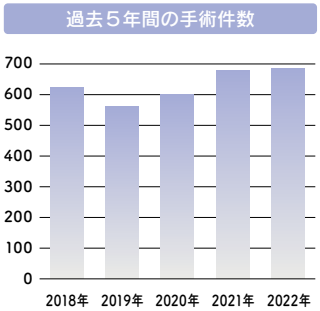
救急患者についても、地域連携を軸に常時対応しています。令和４年度に当科に御紹介いただいた患者数は 1,142 件、紹介率 95.6%、逆紹介率 126% となりました。地域医療支援病院として高い紹介率・逆紹介率を維持し、外科として地域医療に貢献し努めて参りますので、今後とも宜しくお願いいたします。

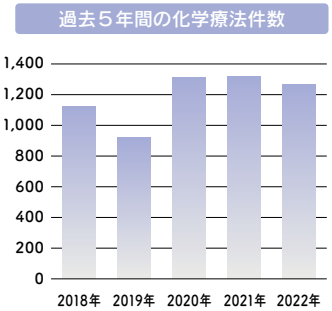
▶福地 稔〈外科主任部長〉

キャンサーボード

▶2022年度手術件数







消化器内科

〔スタッフ〕

常勤医：湯浅和久（部長）、堀内克彦（医長）、田原博貴（医長）、小川綾（医員）、井上錬太郎（医員）

〔特色〕

令和５年度は常勤医５名と非常勤医で消化器疾患全般の診療にあたっています。常勤医５名は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会の専門医として、確かな医療技術と専門知識で高度な、より質の高い医療を引き続き提供してまいります。また、一般内科医として消化器疾患以外の疾患の診療にも広く対応しております。

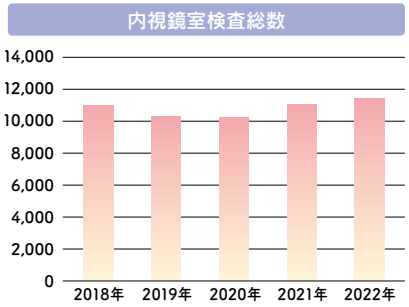
当院では**毎年約 11,000 件の内視鏡検査・治療**を行っています。コロナ禍にあった令和４年度も適切な感染対策を講じ**県内屈指の内視鏡件数を維持**しており、その大部分を当科が担っています。内視鏡部門は、VPP（症例単価払い）契約により常に最新の内視鏡機器を揃え、詳細な観察、的確な診断に基づき、ポリペクトミー、EMR、ESD などの内視鏡治療を行っています。増加が続いている慢性炎症性腸疾患の診断、治療も行っております。正確な診断、高度な内視鏡治療を提供するだけではなく、症例に応じてスコープを使い分け、必要に応じて鎮静剤や鎮痛剤を使用し、苦痛の少ない内視鏡検査で患者さんにより満足していただけるよう心掛けています。

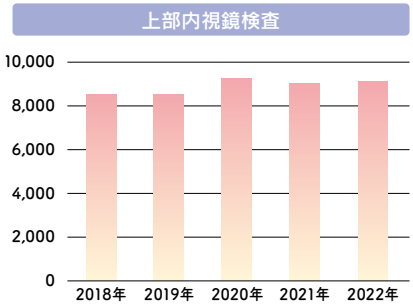
肝疾患については、４名の肝臓専門医を中心に肝疾患専門医療機関として肝疾患拠点病院である群馬大学や近隣の病院、診療所と連携し診療にあたっています。当科では C 型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬（DAA：direct antiviral agent）治療の導入を積極的に行っています。また、きめ細やかな経過観察により肝細胞癌の早期発見に努め、肝細胞癌に対して TACE・TAI や人工胸水・腹水下のラジオ波焼灼術（RFA）、免疫チェックポイント阻害剤を含む全身化学療法も積極的に行っています。NASH や自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、薬剤性肝機能障害などの診断と治療、胃食道静脈瘤や肝硬変、肝不全（難治性腹水、肝性脳症など）の専門的な加療も行っています。

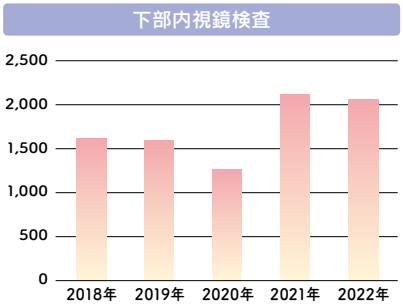
▶湯浅 和久〈消化器内科部長〉

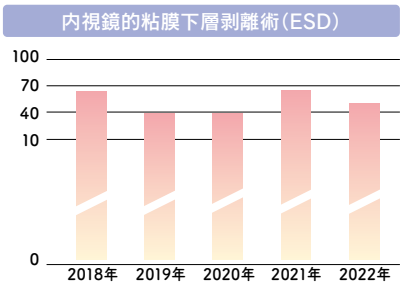
当科には胆・膵疾患の経皮的手技、内視鏡手技の両方に対応可能な医師が多く在籍しており、胆膵疾患の診療も積極的行っています。特に、緊急胆摘術の対象とならない急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢穿刺吸引術 / ドレナージ術、結石性胆管炎や悪性胆管狭窄に対する内視鏡治療は迅速に施行しております。術後例に対するダブルバルーン内視鏡を用いた胆管処置にも可能な範囲で対応しております。

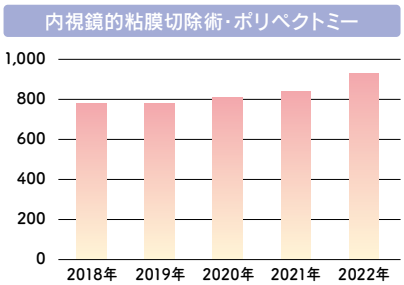
当科は、**外科との連携が緊密であり、外科・消化器内科外来、８階病棟の消化器・肛門疾患センターで消化器外科と一つのチームとして患者さんの診療にあたっています。**カンファレンスで科内の情報共有を行うだけでなく、病棟カンファレンスやキャンサーボード等の合同カンファレンスにより他科との連携も緊密にとれており、個々の症例に対して迅速に対応できていると自負しています。患者さんや地域の先生方からのニーズの多い消化器疾患の診療を高いレベルで実現すべく、最新の設備と質の高い医療技術を基盤に、患者さんの考えを尊重する全人的な医療を心掛け、日々診療していきたいと考えています。

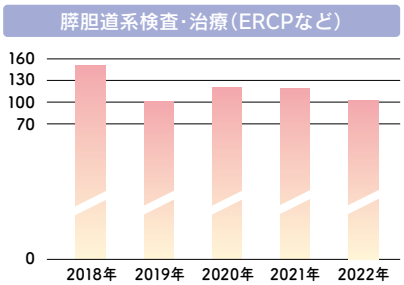












上部消化管内視鏡検査（EGD）2,025 件、下部消化管内視鏡検査（CS）2,060 件、内視鏡的粘膜切開術（EMR）・ポリペクトミー 927 件、内視鏡的粘膜切開剥離術（ESD）49 件（食道 3 件、胃 38 件、大腸 8 件）、経肛門的イレウス管・大腸ステント留置術 20 件、ERCP　101 件（乳頭切開術・拡張術 47 件、減黄術 32 件、採石・砕石術 15 件、造影のみ 7 件）、内視鏡的止血術 53 件（上部 31/ 下部 22）

化学療法室

抗がん化学療法は、新しく開発・承認された抗がん剤や分子標的薬の出現により年々治療の選択肢が増え、多様化・複雑化しています。患者さん一人ひとりに最適な治療が行えるよう、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー等の多職種が連携して診療にあたっています。近年、がん化学療法は入院から外来への移行が進んでおり、最新の化学療法を安全、快適に行えるように、外来化学療法室（リクライニングチェア 4床、ベット 2床、計6床）が整備されており、専従職員が配備されています。安全で質の高い外来化学療法を提供することにより、患者さんの Quality of Life 向上を目指しています。

〈外科〉医師紹介

●院長兼消化器・肛門疾患センター長
兼地域医療連携センター長　**内藤 浩**

昭和 61 年卒（医学博士）
日本外科学会専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医／消化器がん治療認定医／日本消化器病学会専門医・指導医／日本静脈経腸栄養学会認定医／日本臨床栄養代謝学会認定医／難病指定医
【専門分野】
消化器外科、特に胃・大腸の外科、痔疾患の外科

●外科主任部長　**福地 稔**

平成4年卒（医学博士）
日本外科学会認定医・専門医・指導医／日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・評議員／日本消化管学会胃腸科専門医・指導医・代議員／日本食道学会食道科認定医・評議員／日本気管食道科専門医・評議員／消化器がん外科治療認定医／日本がん治療認定医機構認定医／日本臨床外科学会認定医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●外科部長兼地域医療連携センター長補佐　**谷 賢実**

平成3年卒（医学博士）
日本外科学会専門医／日本消化管学会胃腸科指導医・専門医／日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医／日本がん治療認定医機構認定医／難病指定医／日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医／日本 DMAT

●外科医長　**深澤 孝晴**

平成 12 年卒（医学博士）
日本外科学会専門医／日本消化器病学会専門医／日本がん治療認定医機構認定医／日本外科感染症学会ICD／難病指定医／身体障害者福祉法指定医／日本消化管学会胃腸科専門医／日本消化器外科学会専門医／消化器がん外科治療認定医

●外科医長　**斎藤 加奈**

平成 12 年卒（医学博士）
日本外科学会専門医／日本消化器外科学会専門医・指導医／消化器がん外科治療認定医／がん治療認定医／日本消化器病学会専門医／日本消化管学会胃腸科認定医・胃腸科専門医・指導医・代議員／日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●外科医長　**木暮 憲道**

平成 18 年卒（医学博士）
日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会専門医／消化器がん外科治療認定医／日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

●外科医員　**髙橋 宏一**

平成 26 年卒
日本外科学会外科専門医

●外科医員　**上原 弘聖**

平成 31 年卒

〈消化器内科〉医師紹介

●消化器内科部長　**湯浅 和久**

平成9年卒
日本肝臓学会肝臓専門医／日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本消化器病学会専門医／日本消化器内視鏡学会専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●消化器内科医長　**堀内 克彦**

平成 10 年卒
日本肝臓学会肝臓専門医／日本内科学会認定医／肝臓暫定指導医／日本消化器病学会専門医、指導医／日本消化器内視鏡学会専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●消化器内科医長　**田原 博貴**

平成 15 年卒（医学博士）
日本消化器内視鏡学会専門医／日本肝臓学会肝臓専門医・暫定指導医／日本消化器病学会専門医／日本内科学会認定医・総合内科専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／日本消化器病学会指導医

●消化器内科医員　**小川 綾**

平成 26 年卒
日本内科学会認定医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化器病学会専門医／日本肝臓学会肝臓専門医

●消化器内科医員　**岡村 亜弓**

平成 21 年卒
日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化器病学会専門医

●消化器内科医員　**井上 錬太郎**

平成 29 年卒

神経内科

▶診療体制・スタッフ紹介／大沢 天使〈神経内科医長〉

平成 25 年4月から神経内科部門を担当させていただいております大沢と申します。神経変性疾患を中心に、神経疾患全般に関しての診療に携わっております。

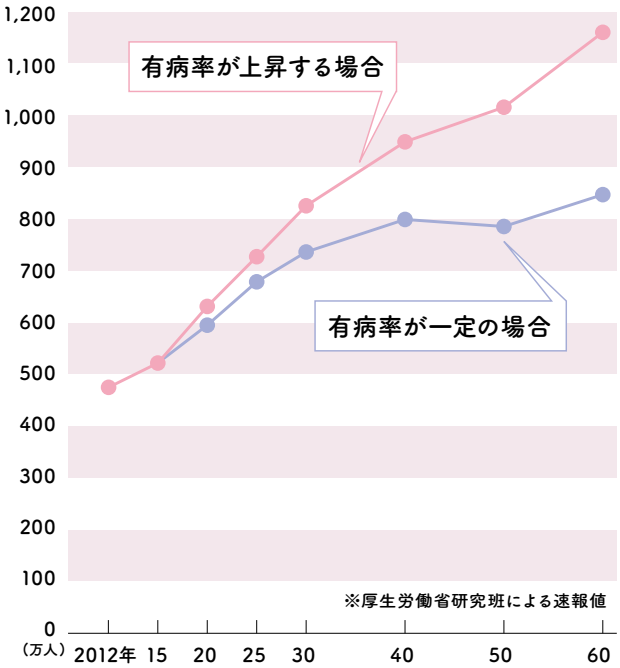
神経変性疾患はその多くが認知症状を伴うことはご存じの通りです。本邦は現在、歴史上前例を見ない高齢化社会へ向かって進んでおり、認知症患者数も右肩上がりで増加中です。直近の厚生労働省の調査によれば国内の認知症患者数は 300 万人を超えるとされ、ここ 10 年間でほぼ倍増しています。平成 24 年の厚生労働省認知症プロジェクトチームの報告では「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会の実現を目指す」ことが明記され、我々の役割としては早期診断・早期支援の確立などが重要と考えております。

アルツハイマー型認知症は、認知症を来す神経変性疾患のうち最大のものです。**当院では早期アルツハイマー型認知症診断支援システムである VSRAD によるＭＲＩ撮影が可能**ですので、これにより早期診断へつなげ、かかりつけ医の先生方のお力になれればと思います。

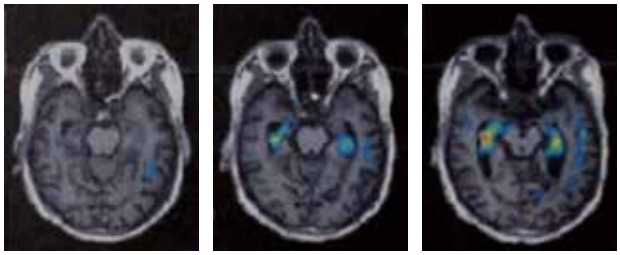
また、もう１つの代表的な神経変性疾患としてパーキンソン病があげられます。パーキンソン病の薬物療法の限界として、罹病期間の長期化とともに運動合併症（ウェアリング・オフ現象やジスキネジア）の問題があげられます。当院では**ウェアリング・オフ現象の改善効果が期待できる本邦初の自己注射製剤であるアポモルヒネ注も採用**されており、まだ症例数は少ないですが適応のある患者さんに対して注射指導など行っております。

神経変性疾患の診療・介護は様々な分野の方々のお力添えが必要です。かかりつけ医の先生方や地域の包括介護支援センターとの円滑な連携に努めてまいる所存ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

▶認知症の人の将来推計



▶ VSRAD によるアルツハイマー型認知症の評価



▶医師紹介

●神経内科医長　**大沢 天使**
平成9年卒（医学博士）／難病指定医

整形外科

▶寺内 正紀〈副院長兼整形外科主任部長兼リハビリテーション部長〉／堤 智史〈整形外科部長〉

〔スタッフ〕

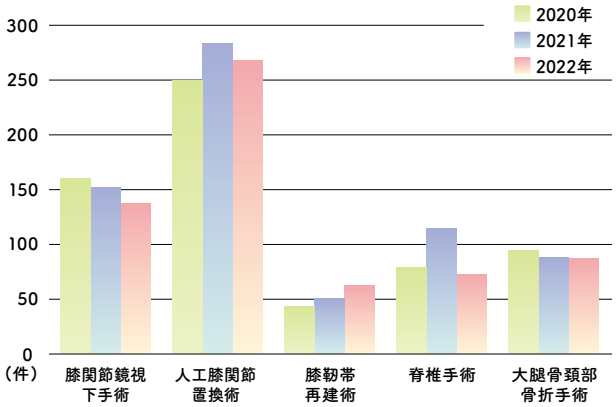
寺内正紀(副院長兼整形外科主任部長兼リハビリテーション部長)、堤智史（整形外科部長)、畑山和久（医長)、中島飛志（医長)、野仲聡志（医員)、書上韻（医員） 計6名

〔膝〕 寺内正紀／畑山和久

膝関節治療については、今年度は主に４名の膝関節外科専門医（寺内、畑山、野仲、徳永）が担当致します。2022 年度もたくさんの患者さんをご紹介頂き、人工膝関節置換術を約 290 件（全置換術約 230 件、部分置換術約 60 件)、前十字靭帯再建術を約 50 件、半月板手術（半月板縫合術もしくは切除術）を約 100 件程度施行させていただきました。その他、膝蓋骨脱臼や膝関節内骨折なども専門性を生かして計画を立てながら治療を行いました。手術を行った患者さんについては、術後も責任をもって診療を継続しサポートさせていただいています。同時に臨床成績を客観的に評価し、今後の患者さんへの治療方針の一助となるように努めています。昨年度は人工膝関節部分置換術のインプラント設置と臨床成績の関係について調査した論文が英語雑誌に掲載され（Kurihara S, Hatayama K, Terauchi M, et al, Arthroplasty Today 2022)、目標とすべきインプラント設置角度を明らかにしました。糖尿病患者に対しては、当院の糖尿病専門医から強力なバックアップを頂き、周術期に厳重な血糖管理を行いながら安全に人工関節手術が行える環境にあり、懸念される合併症である手術部位感染の発症を 0.2% 以下に抑えることができています。術後疼痛管理にも力を入れており、周術期の神経ブロック、全身的および局所的なステロイド投与（Hatayama K, Terauchi M, et al. JBJS Am 2021）によって、良好な術後鎮痛効果、早期機能回復が得られ、１か月以内にほとんどの方が退院できるレベルに回復しています。理学療法士も手術前から積極的に介入し、患者さん個々が望むゴールに到達できるよう、入院中だけでなく退院後も機能回復を目指したリハビリテーションを行うことも可能です。

経験のある若手医師が加わったことによって、アップデートが著しい関節鏡手術においても、最先端の治療を提供できていると考えています。特に前十字靭帯再建術時に合併しやすい半月板損傷への治療について、近年当院で行っている手術方法（Hatayama K, Terauchi M, et al. Orthop J Sports Med 2020）が全国的に注目されています。コロナ感染が落ち着いてきたことも重なり、他県からの手術見学希望者が増えています。これからも常に診療レベルの向上を目指し、地域の患者さんに高度な医療を提供できるよう努力を続けていきます。膝の悩みで困っている患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご紹介頂けますよう宜しくお願い致します。

▶主な手術件数



〔脊椎〕堤 智史／中島飛志

当院では 2007 年４月より脊椎手術を本格的に開始し、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対する後方手術、頸部脊髄症などの手術を行っております。最近はインプラントを用いた脊椎固定術の件数が増加してきております。

腰椎椎間板ヘルニアは安静や投薬、ブロック注射などの保存的治療で十分な効果が得られない場合に手術の適応となります。最近は内視鏡手術を行う施設が増えてきておりますが、当院では後方から直視下にヘルニアを摘出しております。腰痛が強い場合や、重労働をする患者様、再発ヘルニアなどの場合は固定術を追加することもあります。

腰部脊柱管狭窄症は増加傾向にあります。起立時間、歩行距離などにより ADL が障害される場合に手術適応があります。馬尾障害による尿閉などの膀胱直腸障害や、下肢麻痺が生じた場合はできるだけ早く手術をしないと、症状が十分に回復しません。手術では後方から椎弓を切除することにより、神経の圧迫を解除します。すべり症など骨切除により不安定性が生じる可能性がある場合や変形を矯正する必要がある場合は、固定術を追加します。

手術後２日でコルセットを装着し離床となります。術後２－３週程度の入院が必要です。コルセットは３か月程度（固定術を追加した場合は骨癒合するまで）装着していただきます。

頸部脊髄症では手足のしびれ、箸が使いづらいなどの巧緻運動障害、歩行がぎこちなくなるなどの症状が生じます。症状がしびれのみの場合は、経過観察としますが、運動障害を認める場合は手術を行います。手術は椎弓形成術（拡大術）を行う場合が多いです。すべり症などによる不安定性がある場合には固定術を追加します。有病期間が長く、術前の症状が重症なほど術後の回復は不十分となりやすく、早めの手術をおすすめします。

手術以外にも近年増加傾向にある高齢者脊椎圧迫骨折に対する入院による保存的治療もおこなっております。高齢者圧迫骨折は容易に椎体圧潰が進行し、楔状変形や偽関節を生じやすいです。生じた脊椎の後弯変形や遷延する背部痛のため、患者様の QOL を著しく低下させるため、初期治療が極めて重要であると考えます。当院では基本的に入院安静とし、MRI を撮像し、骨折の見逃しがないように注意しております。患者様の ADL、年齢、体格などを考慮しながらコルセットを作成し、早期の離床をめざしています。偽関節による疼痛増強により歩行困難となった場合や下肢麻痺を生じた場合には後方固定術をおこなっております。また骨折の状態によっては骨セメントによる椎体形成術を行っていく予定で準備しております。

今年度も脊椎は堤、中島の２人体制であり、水曜日と金曜日の外来は脊椎の診察ができません。大変ご不便をおかけいたしますが、ご承知くださいますようよろしくお願いいたします。

第４腰椎変性すべり症による脊柱管狭窄症

固定術後正面

固定術後側面

頚椎後縦靭帯骨化症ＣＴ

椎弓形成術後レントゲン

術後 MRI

▶医師紹介

●副院長兼整形外科主任部長兼リハビリテーション部長　**寺内 正紀**

昭和 59 年卒（医学博士）／認定医（認定臨床医）H24 ／認定医（認定臨床医）H4 ／ JKS（日本膝学会）評議員／身体障害者福祉法指定医／整形外科専門医

●整形外科部長　**堤 智史**

平成3年卒（医学博士）／日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医／日本脊椎脊髄学会脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄学会脊椎脊髄外科専門医／日本脊椎脊髄病学会認定クリニカル・フェロー／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●整形外科医長　**畑山 和久**

平成 11 年卒（医学博士）／日本整形外科学会専門医／膝関節フォーラム世話人／ JOSKAS（日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会）評議員・関節鏡技術認定医（膝）／身体障害者福祉法指定医／難病指定医／ザスパクサツ群馬チームドクター／日本人工関節学会認定医／関東膝を語る会世話人／日本スポーツ整形外科学会代議員

●整形外科医長　**中島 飛志**

平成 11 年卒（医学博士）／日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医／日本脊椎脊髄学会脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄学会脊椎脊髄外科専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

●整形外科医員　**野中 聡志**

平成 21 年卒／日本整形外科学会専門医／日本体育協会認定スポーツ医／ザスパクサツ群馬チームドクター

●整形外科医員　**徳永 伸太郎**

平成 23 年卒／整形外科専門医

産婦人科

▶伊藤 理廣〈副院長兼リプロダクションセンター長〉

〔スタッフ〕

伊藤理廣（副院長兼リプロダクションセンター長）、太田克人（産婦人科主任部長）、亀田高志（産婦人科部長）、齋藤和子（医長）、村上麻耶（医員）、榊原花香（医員）

〔特色〕

産婦人科の診療の最大の特色は地域周産期センターとして小児科と連携しながら地域医療に長年貢献してきていることにあります。助産師も大きな役割を果たしています。さらに内科や麻酔科の協力のおかげで、多胎妊娠、早産、合併症妊娠や緊急手術にも随時対応してきています。

また母体搬送については胎児が妊娠 28 週以降については基本的に小児科に受け入れていただいており母体搬送の可能なレンジも広がっています。

分娩総数については最盛期の約半分となったが今でも多くの分娩を取り扱っていることには間違いありません。今後病棟の個室化など産婦のニーズに合った医療の提供を考えることで再び分娩数の増加を目指したいと考えています。本年度より群馬大学で周産期医療の責任者であった亀田高志部長が当院に赴任したことで周産期医療のさらなるボトムアップを図っているところであります。現在新生児周産期学会の認定の施設の取得や出生前診断の一つである NIPT 施設の認定を目指して準備を進めているところであります。

婦人科に関しては相変わらず内視鏡 に力を入れており昨年度は内視鏡手術総数が 200 件を超えた。当院は日本産科婦人科内視鏡学会及び日本内視鏡外科学会の技術認定医が在籍しており認定修練施設に指定されています。それ以外にも開腹による巨大な子宮筋腫の手術や悪性腫瘍の手術に対しても応じている一方、薬物療法にも力を入れています。

不妊治療に関しては昨年 4 月より体外受精を中心に

保険診療に取り入れられ患者さんのニーズが広がっているためにそれに対応すべく胚培養士と様々な点を改良し、保険診療に伴って新たに認められた先進医療の取り入れについても検討中です。不妊症不育性のスペシャリティーを強化するために最新かつ最高の設備を導入したリプロダクションセンターを開設しており現在日本生殖医学会の認定研修施設となっています。日本生生医学会認定施設となっている総合病院は群馬県内では群馬大学と当院のみでありさらにがんと生殖医療に対応するために県から指定を受けて医学的適応のある患者さんの精子や胚の凍結を始めています。

手術やリプロに関しては群馬大学産科婦人科学教室立主任教授の岩瀬明先生と講師の北原慈和先生がそれぞれ週一回腹腔鏡手術の指導に来ていただいておりレベルの高い手術が可能となっています。

外来に関しては外来スペースは院内の科別でも最も広いスペースをいただいており 1 日 100 人以上の患者さんを診療をさせていただいていますが、なにぶん患者数が多いために待ち時間が長くなっていることが問題となっています。外来には、最新型の超音波を導入済みで、胎児診断に威力発揮しています。

▶医師紹介

●副院長兼リプロダクションセンター長　伊藤 理廣

昭和 60 年卒（医学博士）／日本産科婦人科学会専門医・指導医・代議員／日本生殖医学会専門医・代議員／日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医・理事・編集委員・杉本賞選考委員／日本内視鏡外科学会技術認定制度技術認定医（産科婦人科）／群馬産婦人科学会副会長／母体保護法指定医／日本生殖免疫学会理事・編集委員／日本卵子学会評議員生殖補助医療胚培養士認定委員／ベスト・ドクターズ 2014 ～ 2015 ／難病指定医／群馬県国民健康保険診療報酬審査委員会委員／群馬県看護協会群馬県助産師出向支援導入事業協議会委員／日本受精着床学会評議員／関東ブロック産婦人科医会　広報委員

●産婦人科主任部長　太田 克人

昭和 62 年卒／日本産科婦人科学会専門医／母体保護法指定医

●産婦人科部長　亀田 高志

平成6年卒／日本産科婦人科遺伝診療学会認定（周産期）／母体保護法指定医師／J-MELS ベーシックコース・インストラクター／産婦人科指導医・専門医／周産期専門医（母胎・胎児）／新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）

●産婦人科医長　安部 和子

平成7年卒（医学博士）／日本産科婦人科学会専門医／母体保護法指定医／麻酔科標榜医

●産婦人科医員　村上 麻耶

平成 28 年卒／産婦人科専門医

●産婦人科医員　榊原 花香

令和2年卒

リプロダクションセンター

不妊症と不育症の治療をトータルに行い、患者さんの挙児の希望を叶えるべく取り組んでいます。不妊に悩む方への特定治療支援事業指定医療機関に指定されました。

1978 年にイギリスでエドワーズとステプトウにより初の体外受精児が誕生、日本では 1983 年に東北大学で初の体外受精児が誕生し、今現在も日本国内で年間4万人の赤ちゃんが、体外受精によって誕生しています。**最新の体外受精機器を駆使し、顕微授精、胚凍結を含めた生殖補助技術による治療を日本産科婦人科学会の会告に基づいて行います。**

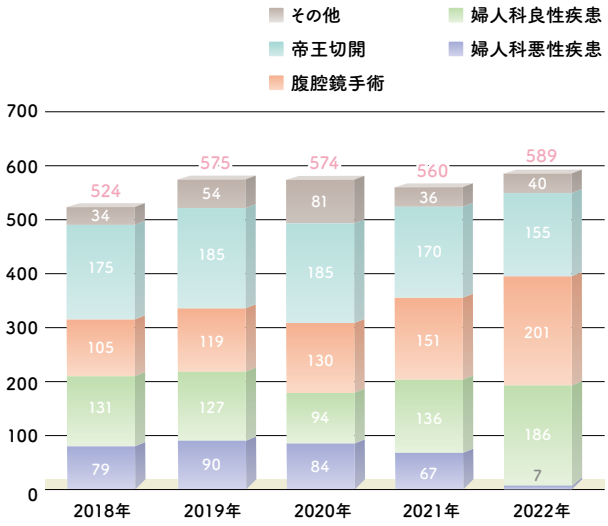
胚の培養は日本卵子学会認定の胚培養士が行います。

胚の培養にあたっては、最新の取り違え防止システムと画像システムを導入し、細心の注意を払って行います。

▶分娩数及び手術実績等

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
件数	594	566	484	482	439
正常	381	350	278	270	260
帝切	177	184	171	179	55
吸引	25	18	21	21	17
鉗子	11	13	13	11	0
双胎	28	16	19	17	16

▶手術件数



産科について

産科領域では、通常の妊娠から高齢妊娠、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、抗リン脂質抗体症候群合併妊娠などハイリスクの妊娠まで対応しております。

すべての妊娠に関して、外来診察時から入院、分娩時まで一貫して、産科医師と助産師がチームとして対応し、自然で安全、安心なお産（分娩）に努めています。

また、当院は地域周産期センターに指定され、重篤な合併症を有する妊婦や切迫早産は、母体搬送を 24 時間体制で受け入れ、小児科と連係し、母体・胎児・新生児の集中的治療を行っています。

また、現在分娩制限を行っていないので、里帰り出産希望のかたも、どの時期からでも御紹介下さい。

眼　科

▶前嶋 京子〈眼科医長〉

長寿社会になり人は何歳になっても見え方の質 QOV（quality of vision）を求めるようになりました。今日の眼科医療もそれに応えるべく日々医療革新を遂げています。

当科での取り組み・特徴についてご紹介したいと思います。

当科では平日午前は一般外来として診療を行っております。月曜日は午前外来、午後手術に群馬大学からの派遣で宮久保朋子先生に来ていただいております。緊急性のある疾患については即日レーザー治療や小手術を行っており、CT、MRI も積極的に診断に取り入れ他科との連携を図りながら治療に取り組んでおります。基本的に再診患者さんは予約制として待ち時間を減らすよう努力しております。初診患者さんはいつでも診察可能としています。小児眼科については検査に時間がかかることもあるため午後小児眼科外来予約をお薦めしております。視能訓練士は３名常勤でおり、斜視・弱視訓練も数多く行っております。小児の場合１回の検査で診断するのは難しいこともあり、成長発達を見ながらゆっくりと時間をかけて検査・治療をすすめています。月１回小児眼科専門の池田史子先生（日高病院眼科部長）に来て頂き斜視手術を行っております。県内において斜視手術可能施設が少ないことから遠方の患者さんが手術目的に来院されております。月１回、月曜日の午後は横地みどり先生（横地眼科院長）、水曜日午後は高橋京一先生（たかはし眼科クリニック院長）にサポートに来て頂いており手術を行っております。ご高齢の患者さんが多いので白内障手術は基本的に１泊２日もしくは２泊３日入院で行っています。月２回火曜日午後はロービジョン外来を開設しました。視覚障害者のみならず視機能低下のある方がより生活しやすいように補助具の紹介や補助具の選定、インターネット含めた様々なサービスの紹介等を行っております。まだまだロービジョン外来として始動したばかりで、患者さんと共に手探りのこともありますが、視覚障害者への理解と支援のために微力ながら力になれればと思っております。

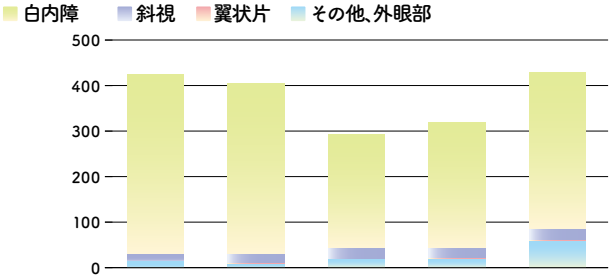
また、当院併設健康管理センターでの人間ドックで目の異常を指摘され当院眼科を受診される方もいます。とりわけ緑内障疑いの患者さんが近年増加しています。日本における失明原因第１位は緑内障であり、日本緑内障学会で行った大規模調査（多治見スタディ）によると 40 歳以上の 20 人に１人の割合で緑内障の方がいると言われています。緑内障治療も早期発見・早期治療により以前より失明に至る患者数は減少してきています。緑内障は慢性疾患とも言われており、治療も長年に渡るため、科を超えて地域の先生方と関わることが多いと思います。その際は必要な情報を共有しながら患者さんの治療に携わっていければと思います。

まだまだ眼科医療として課題も多くありますが、目のことでお力になれることがあればいつでもご相談頂ければと思います。

▶診療

	月	火	水	木	金
午前	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来
午後	手術 予約検査	手術 ロービジョン 外来	外来治療 小児予約検査	外来治療 小児予約検査	予約検査

▶手術症例



	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
白内障	394	375	250	278	345
斜視	16	19	24	22	24
翼状片	1	3	0	2	2
その他、外眼部	13	7	19	18	58
合計	424	404	293	320	429

▶医師紹介

●眼科医長　**前嶋 京子**

平成9年卒（医学博士）／日本眼科学会専門医／身体障害者福祉法指定医／難病指定医

耳鼻咽喉科

▶工藤 毅〈耳鼻咽喉科部長〉

〔スタッフ〕

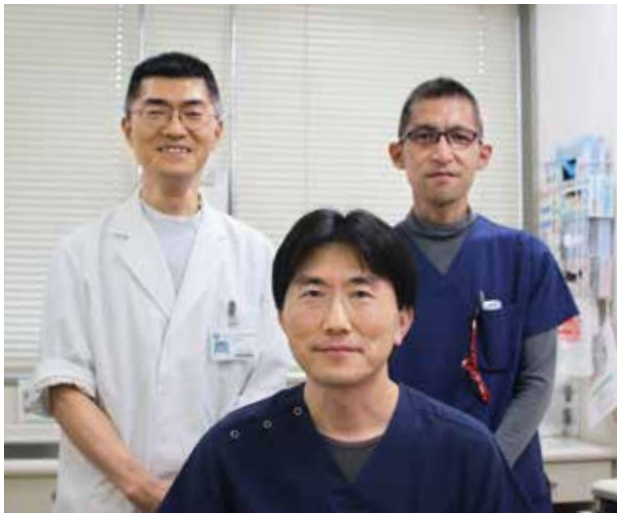
常　勤：工藤毅（医長）、内山通宏（医長）　　計２名
非常勤：竹越哲男、塚田晴代、群大病院医師　計３名

〔特色〕

基本的には耳鼻咽喉科領域の多くの疾患に対応しています（頭頸部腫瘍を除く）。常勤医師２名で、外来診療と入院診療をおこなっています。手術は、小児の扁摘や鼓膜チューブ留置などに対応しています。2023 年４月より、成人の鼻副鼻腔疾患の内視鏡下手術を開始しました。

外来診療は予約制としており、午前中は２診でおこなっています（水曜日は１診）。午後は、火曜日と金曜日に嚥下評価を目的とした嚥下外来をおこなっています。理学療法士と連携しながら、嚥下リハをおこなっています。

また、毎週火曜日の午後に元部長の竹越医師、月１回水曜日の午後に元医長の塚田医師が診察をおこなっています。竹越医師の専門はめまいであり、漢方を活用した診療を特徴としています。塚田医師の専門は小児難聴と補聴器であり、検査技師や言語療法士と協力して難聴精査をおこなっています。



入院診療は、めまいや扁桃炎といった急性期疾患のほか、突発性難聴や顔面神経麻痺の症例が多いという特徴があります。

▶入院患者数とその内訳

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
入院患者数	317	394	344	286	293
内訳					
めまい	45	56	64	60	41
突発性難聴	70	71	40	61	59
顔面神経麻痺	27	26	35	21	28
急性扁桃炎／咽喉頭炎	55	41	32	23	34
扁桃周囲炎／扁桃周囲膿瘍	43	57	46	52	47
急性喉頭蓋炎／咽喉頭浮腫	27	25	18	15	6
蜂窩織炎／頸部膿瘍	2	5	7	9	11
その他	48	113	102	45	67
アデノイド切除／扁摘	–	37	29	28	14
先天性耳瘻孔	–	2	3	2	2
鼓膜チューブ留置	–	9	5	5	5

鼻副鼻腔疾患の手術を開始しました

このたび、手術用内視鏡システムと手術器具を導入し、**副鼻腔疾患の外科的治療に対応**できるようになりました。

安全な手術を提供できるよう、ナビゲーションシステムも導入しました。

▶医師紹介

●耳鼻咽喉科部長　**工藤 毅**
平成 11 年卒／日本耳鼻咽喉科学会指導医・専門医／難病指定医

●耳鼻咽喉科医長　**内山 通宏**
平成 14 年卒／身体障害者福祉法指定医

歯　科

▶平林 晋〈歯科部長〉

〔スタッフ〕
部長　平林　晋、歯科衛生士　３名　　計４名

〔特色〕
当院歯科では、幼少児から御高齢の方々まで広い年齢層の診療をしています。また、他科病棟に入院中および、通院中の患者さんの歯科治療を行っています。また当院の附属介護老人保健施設の入所者やデイサービス通所者の検診、さらには、病院歯科の使命として、開業医の先生方より、紹介された患者さんの、歯科治療も併せて行っています。

〔診療実績〕
令和２年、３年、４年の紹介患者率は、それぞれ、8.2%、10%、10.2%とコロナの影響を受け、回復途上です。手術数減少に伴い、周術期口腔機能管理、糖尿病教育入院の初診患者さんも減少したためと思われます。これからも、群馬県歯科医師会も進めている病診連携会への参加と、地域医療連携室の活用を積極的に行いたいと思っています。

初診患者さんの主訴別分布は、周術期口腔機能管理、歯周病（DM教育入院含む）、外科的疾患が上位を占めています。当科では、抜歯（埋伏抜歯など）を行う場合、紹介医のもとより充分な情報を得るように努めると共に、遠方の患者さんの場合、診療情報提供書を患者さんに渡し、抜歯翌日からの処置は、可能な限り、紹介医に依頼しています。

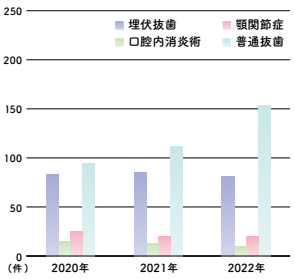
また、予防歯科に関しては、PMTC（機械的口腔清掃）を治療の中に取り入れ、さらに希望者にはフッ素の応用をふくめた、定期的なリコールを行っています。さらに人間ドック受診の際に、オプションではあるが、歯科口腔健診を受けられるようにし、また職員健診にも歯科口腔健診をとり入れることにより、職員の受診率と予防歯科への関心が高まるようになってきました。

平成23年3月26日より、歯科ユニット２台が新しくなりました。平成25年２月には、痛みが最も少ない歯科治療用レーザー装置であるEr:YAG（エルビウムヤグ）レーザーを導入し、臨床応用を行っています。平成28年よりNST回診、MRMラウンドにも衛生士が参加。さらに平成30年８月より歯科衛生士が、病棟の摂食機能訓練患者の口腔ケアを実施しており、病棟Ns.およびSTと連携を取って治療に参加しており、高評価を得ています。さらに令和元年より、附属老人健康施設においても、歯科衛生士が、入所者、通所者の口腔ケアを実施し、介護士にも口腔衛生指導を行っています。

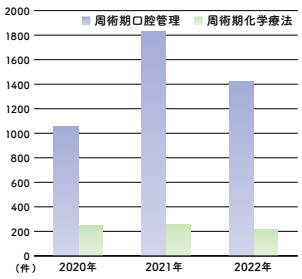
〔今後の展望〕
歯科治療は、専門化、細分化される傾向にあり、特に病院歯科においては、地域医療の中核として使命を果たす必要があると思われます。開業医の先生方との良好な関係を築き、専門性の強化のため各病院と病診連携を築いていきます。さらに、現在行っている併設の老人保健施設入所中者の、口腔ケアに加え、入院患者さんの口腔ケアも継続して行って患者さんのQOLの向上に寄与していきたいと考えています。

▶歯科小手術処置

	2020年	2021年	2022年
埋伏抜歯	83	85	81
口腔内消炎術	15	13	10
顎関節症	25	20	20
普通抜歯	94	112	153
歯根嚢胞摘出術	0	0	1
良性腫瘍摘出	4	3	2
創傷処置	3	4	2
小帯処置	0	0	0
口腔粘膜疾患	12	15	13
顎関節脱臼	3	4	2



	2020年	2021年	2022年
周術期口腔管理	1,058	1,832	1,419
周術期化学療法	251	260	213



▶医師紹介

●歯科部長　**平林 晋**

昭和63年卒（医学博士）／日本病院歯科口腔外科学会会員／日本有病者歯科医療学会会員／歯科医師臨床研修指導歯科医／BLSヘルスケアープロバイダー／Er:YAGレーザー臨床研究会会員

放射線科

▶平澤 聡〈放射線科部長兼放射線部長〉

当院の放射線科では常勤医師2名が画像診断とIVR（画像下治療）を行っています。

〔安心をめざして〕

当院では原則当日中に画像報告書を作成していますが、STAT読影（至急読影）の依頼を受けるとおよそ60分以内に報告書を発行します。この依頼はもともと外来患者さんになるべく早く検査結果を伝えるためのもので、そのスピードが重視されてきましたが、当日中に報告書を確認していただく画像報告書の確認不足が減るというメリットがあることがわかりました。そこで、スピード重視ではなく報告書の見逃しを防ぐ安全な診療のためのシステムと位置づけて、今後も取り入れていきます。

〔業務について〕

平成29年度より単純X線の読影は各診療科にお願いしていますが、画像の相談はいつでも受け付けています。CT、MRIについては、引き続きすべての症例を読影しています。さらに健診部門の胸部X線、胃透視、マンモグラフィーの一部の読影も行っています。

IVRは非血管系手技（生検､ドレナージ）を中心に行っています。ドレナージは急を要するものも多いため迅速な対応を心掛けています。血管系IVRは主に止血術（消化管や婦人科臓器）に対応しています。また、消化器科医師と群馬大学医学部附属病院のIVR医の協力のもと、肝動脈動注塞栓療法（TACE）を行っています。

〔連携〕

放射線科は各診療科との連携が不可欠です。急を要する所見があった場合は、画像報告書確認の遅れを防ぐために担当医への直接連絡を行うなど、医療安全に配慮して業務を進めています。また、画像診断の精度を上げるために各診療科とのカンファレンスも積極的に行っています。

〔検査機器について〕

当院では64列のMDCT2台､3T（テスラ）MRI1台、フラットパネル血管造影装置、その他デジタル撮影装置、PACS（画像管理システム）が画像診断を支えています。

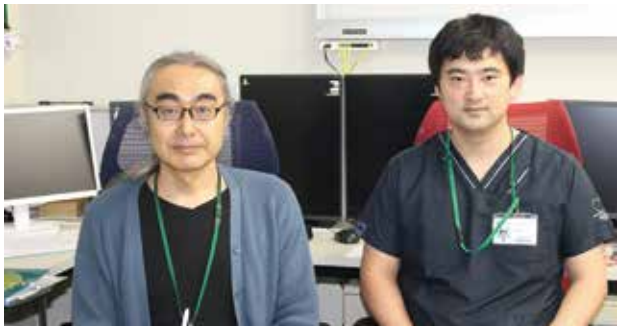
▶医師紹介

●放射線科部長兼放射線部長　**平澤 聡**

平成10年卒（医学博士）／日本医学放射線学会放射線診断専門医・放射線科専門医／日本インターベンショナルラジオロジー学会認定（IVR）専門医

●放射線科医員　**高山 裕章**

平成31年卒



CTガイド

3テスラMRI

▶年度別検査件数

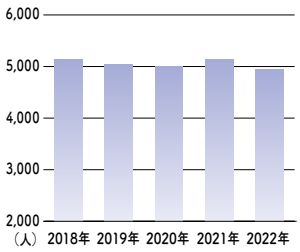
1. 病院部門

検査項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
MR	5,135	5,044	5,004	5,142	4,946
CT	10,609	10,003	9,721	11,103	10,554
血管撮影	354	351	297	311	257
一般撮影	20,695	19,828	16,779	18,133	17,908
TV検査	680	556	469	664	593
乳腺	232	203	189	220	213
歯科	821	942	781	796	711
骨密度	948	914	830	963	1,007
コピー・画像取り込み・CD出力	5,966	6,592	5,226	6,515	6,811

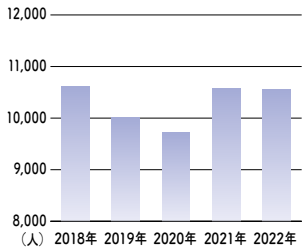
2. 健診センター部門

検査項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
胃透視	10,992	10,175	9,371	9,352	9,564
胸部	26,807	26,022	25,595	26,091	26,143
乳腺	6,316	5,802	5,677	6,067	5,317
バス）胃検査	3,700	3,500	2,368	3,216	3,065
バス）胸部	8,031	7,809	6,415	6,619	7,309

▶MR撮影人数



▶CT撮影人数



病理診断科

▶来るAI時代の診療はどうなる？／櫻井 信司〈病理診断科（兼）臨床検査部長〉

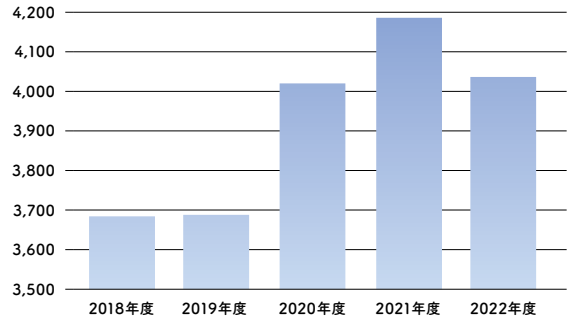
これまで通り当院の病理診断科は常勤の病理診断医（私）1名と、細胞検査士四名を含む臨床検査技師7名で構成しています。群馬大学から非常勤医師1名、近隣の病院に勤務する病理医の先生が勉強目的に1名、各々週に1回、当院の標本を診てくれており、診断のチェック体制を維持しています。

最近、世間では生成型AIと呼ばれる人工知能の急速な発達が話題になっています。人間とは比較にならないスピードで学習を続け、人間のように休むことなく、不眠不休で仕事をさせることも可能なため、多くの労働者がAIに取って代わられるのではないか、と期待と仕事が奪われる不安の入り混じった状況になっているように思われます。

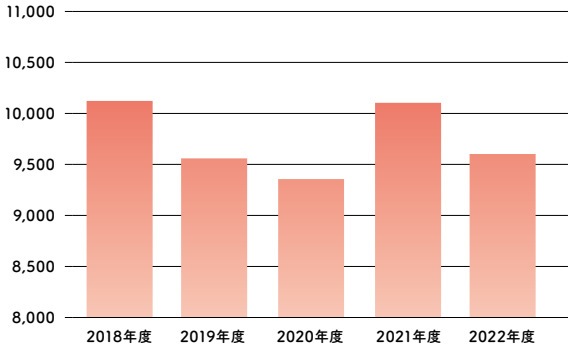
例にもれず医療現場にも既にAI診断システムが研究開発されており、既にパイロット版の内視鏡診断や病理診断のシステムが開発途上にあります。このようなシステムが導入されると医師、病理医の仕事もなくなってしまうのでしょうか？ネット上で既に公開されているAIの病理診断システムに、ある症例を診断させたことがあります。AIの診断は、学習した症例との一致確率90%以上で“悪性黒色腫”でした。ほぼ断定です。しかし、残念ながらこの症例の診断に苦慮していた私でも、この症例が“絶対に悪性黒色腫じゃない”ことだけは、顕微鏡を覗いた瞬間にわかります。細胞の異型も分裂像も乏しく、まったく悪性黒色腫の要件を満たしていないからです。なぜAIはこのような誤診をしたのでしょう。それは深層学習と呼ばれるAIの学習方法が、詳細な形態の計測、分析による緻密な評価による診断ではなく、組織全体のパターン認識によりなされていたからだと思われます。しかし、良性の腫瘍でも悪性と似た組織像、パターンを示す腫瘍はたくさん存在し、現段階のAIはそれを区別することが出来なかったようです。そこで改めて自分が行っている病理診断は、標本のパターンのみでなく、様々な臨床情報や緻密な形態の分析を無意識に組み合わせ、総合的に判断しているのだと認識させられた一例でした。ちなみにその症例は稀な部位に発生した良性のグロームス腫瘍でした。

恐らくそう遠くない将来、病理診断のみならず、外来を含む幅広い医療現場の診療にAIが導入されることでしょう。しかし、目の前の患者さんはAIが学習した過去のどのパターンとも完全一致することはない、世界でただ一人の存在であることを考えれば、過去のパターンから分析するAIが不適切な判断をする可能性がゼロになることはないでしょう。しかし、それは人間の医者も同じです。AIの導入により医療現場の負担が減少し、さらに人間の職員と協力し合う事によって、はじめて今よりもはるかに迅速かつ正確、安全な医療が実現できるのかもしれません。我々病理医もAIの普及を恐れるのではなく、柔軟に利用しながら診断行っていければ、と思うこの頃です。

▶組織診受付件数



▶細胞診受付件数



▶医師紹介

●病理診断科主任部長兼臨床検査部長　**櫻井 信司**

平成2年卒（医学博士）
日本病理学会病理専門／日本臨床細胞学会細胞診専門医

皮膚科

▶龍﨑 圭一郎〈皮膚科部長〉

〔スタッフ〕

常　勤：龍﨑 圭一郎（皮膚科部長）　　計 1 名

〔特色〕

当院皮膚科は非常勤体制で外来診療のみを行なってきましたが、平成 30 年４月から常勤化され、入院患者の受け入れを開始しました。

皮膚科で扱う疾患は皮膚に生じた異常全般で、多岐に渡っています。当科では湿疹や白癬など一般的な皮膚疾患の他に、膠原病、皮膚腫瘍、水疱性類天疱瘡などの自己免疫性水疱症など皮膚疾患全般の診療を行なっています。

外来診療は平日午前と木曜日午後です。

手術は水曜日午後に手術室、火曜日と木曜日の午後に皮膚科外来処置室を使用し、主に局所麻酔での皮膚生検、皮膚腫瘍切除、皮弁形成や植皮などを行なっています。

院内他科からの診察依頼も多く、随時対応しています。また毎週金曜日午後に院内褥瘡患者のカンファレンスと回診を行なっています。医師、看護師の他に薬剤師、栄養士が参加した多職種によるチームを形成し、褥瘡発生予防や早期治癒に努めています。

入院、手術が必要な患者さんを随時受け入れ、当院で診療困難な場合は群馬大学皮膚科と連携して診療を行なっています。

地域の先生方からのご紹介に対してはお断りすることなく、ご期待に沿えるように精一杯診療に当たらせて頂きます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

▶皮膚科週間予定表

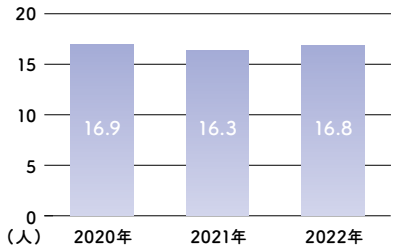
	月	火	水	木	金
午前	外来診察（龍﨑）	外来診察（龍﨑）	外来診察（龍﨑）	外来診察（龍﨑）	外来診察（龍﨑）
午後	—	手術・検査（外来処置室）	手術（手術室）	手術・検査（外来処置室） 外来診察（龍﨑、予約のみ）	褥瘡カンファレンス 褥瘡回診

▶医師紹介

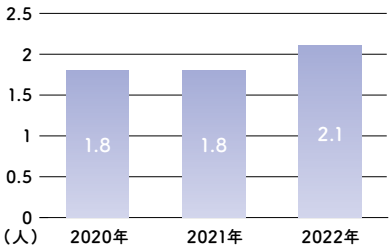
●皮膚科部長　**龍﨑 圭一郎**

平成5年卒／日本皮膚科学会皮膚科専門医／難病指定医

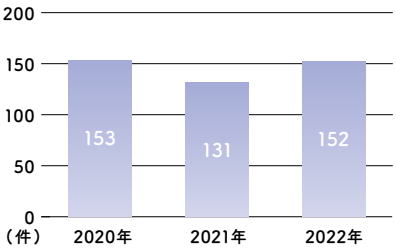
▶外来患者数（1日平均）



▶入院患者数（1日平均）



▶手術件数



独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院

ホームページのご案内

http://gunma.jcho.go.jp/

内容は随時更新していきますので、度々ご確認いただくことをお勧めいたします。

群馬中央病院公式 Facebook

https://www.facebook.com/gunmatyuoubyouin/

群馬中央病院の情報を随時更新しています。
ぜひチェックしてください。

JCHO群馬中央病院　診療担当医一覧表

受付時間：午前8時～午前11時　休診日：土曜、日曜、祝日、年末年始（12/29～1/3）　　2023年7月1日現在

診療科・曜日			月	火	水	木	金
内　科	総合内科（初診）	午前	齋藤 勇一郎	阿久澤 暢洋・小保方 優	阿久澤 暢洋	北原 陽之助	阿久澤 暢洋・佐藤 浩子
	一般（予約）	午前			今井 邦彦・田嶋 久美子	今井 邦彦・田嶋 久美子	長谷川 典子
		午後	今井 邦彦・田嶋 久美子	北原 陽之助	今井 邦彦	大山 啓太	田嶋 久美子
	循環器内科（予約）	午前	羽鳥 貴・吉田 尊 須賀 俊博（1・3・5週） 須賀 俊博（糖尿病2・4週） 田村 駿太郎（不整脈2・4週）	羽鳥 貴 田部井 亮太	吉田 尊	須賀 俊博	
	呼吸器科（予約）	午後	宇野 翔吾	武藤 壮平	解良 恭一	小池 陽子	蜂巣 克昌
神経内科（予約）		午前	大沢 天使	清水 千聖		大沢 天使 原澤 駿（初診）	大沢 天使
		午後	金子 由夏	清水 千聖	大沢 天使	原澤 駿（初診）	
消化器内科	初 診	午前	堀内 克彦	田原 博貴		湯浅 和久	
	予 約	午前	清水 雄大（胆・膵）	小川 綾	堀内 克彦・小川 綾		湯浅 和久・井上 錬太郎
		午後	岡村 亜弓		田原 博貴	岡村 亜弓	岡野 祐大
糖尿病センター（予約）		午前	根岸 真由美 須賀 俊博（2・4週）	根岸 真由美・有山 泰代	中島 康代	中島 康代	根岸 真由美・登丸 琢也
		午後		中島 康代 フットケア		根岸 真由美	
小児科	一 般	午前	河野 美幸・坂本 康大	田代 雅彦・須永 康夫	田代 雅彦・水野 隆久	田代 雅彦・須永 康夫	田代 雅彦
	心臓（予約）	午後			田代 雅彦（1・3・5週） 小林 富男（2・4週）	田代 雅彦	
	神経発達（予約）	午前	須永 康夫		須永 康夫		
		午後	須永 康夫・橋本 真理	須永 康夫	須永 康夫	須永 康夫	春日 夏那子
	アレルギー（予約）	午前					水野 隆久
		午後	水野 隆久			水野 隆久	水野 隆久
	腎 臓（予約）	午後	田畑 洋太（2・4週） 平形 絢子（1・3・5週）		武井 麻里子	山﨑 陽子	武井 麻里子
	発達フォロー（予約）	午前				河野 美幸	
		午後		河野 美幸	河野 美幸		
	乳児健診（予約）	午後		坂本 康大・長谷川 芽衣			
	予防注射（予約）	午後			土橋 里美・山下 真沙美		
外　科	一般・消化器	午前	内藤 浩・深澤 孝晴 髙橋 宏一	福地 稔・谷 賢実 木暮 憲道・ 調 憲（肝・胆・膵）【紹介】	福地 稔・斎藤 加奈 上原 弘聖・ 阿部 知伸（心臓血管外科）	内藤 浩・深澤 孝晴 木暮 憲道・ 五十嵐 隆通（肝・胆・膵）	斎藤 加奈・髙橋 宏一 上原 弘聖
		午後（予約）		山口 玲 （脳神経外科14：00～）		大瀧 容一（呼吸器外科） 長嶋 起久雄（緩和ケア外科）	
	乳腺・甲状腺（紹介）	午前				尾林 紗弥香	
		午後	藤井 孝明 （14:00～17:00）				
整形外科		午前	寺内 正紀（膝） 堤 智史（脊椎） 中島 飛志（脊椎） 野仲 聡志（膝）	寺内 正紀（膝） 堤 智史（脊椎） 畑山 和久（膝） 中島 飛志（脊椎）	畑山 和久（膝） 野仲 聡志（膝） 徳永 伸太郎（一般）	堤 智史（脊椎） 中島 飛志（脊椎） 徳永 伸太郎（一般）	寺内 正紀（膝） 畑山 和久（膝） 野仲 聡志（膝） 徳永 伸太郎（一般）
		午後（予約）					畑山 和久（膝） （1・3週）
産婦人科	一 般	午前	伊藤 理廣・金井 眞理	北原 慈和・伊藤 理廣 （8:30～10:00）	太田 克人・伊藤 理廣 （10:00～12:00） 村上 麻耶	太田 克人・亀田 高志 榊原 花香	伊藤 理廣・安部 和子
		午後（予約）	太田 克人（検査）	金井 眞理 手術	太田 克人 村上 麻耶（産後）	伊藤 理廣（術前）	太田 克人（検査） 安部 和子
	妊婦健診	午前	村上 麻耶	安部 和子	亀田 高志	伊藤 理廣（妊婦のみ）	豊田 奏子
		午後（予約）	榊原 花香		亀田 高志	篠﨑 博光（ハイリスク）	
眼　科		午前	宮久保 朋子・前嶋 京子	前嶋 京子	前嶋 京子	前嶋 京子	前嶋 京子
耳鼻咽喉科（予約）		午前	工藤 毅・内山 通宏	工藤 毅・内山 通宏	内山 通宏	工藤 毅（紹介） 内山 通宏（紹介）	工藤 毅・内山 通宏
		午後	検査	工藤 毅（嚥下） 内山 通宏（嚥下） 竹越 哲男	塚田 晴代 検査	冨所 雄一	工藤 毅（嚥下） 内山 通宏（嚥下）
皮膚科		午前	龍﨑 圭一郎	龍﨑 圭一郎	龍﨑 圭一郎	龍﨑 圭一郎	龍﨑 圭一郎
		午後（予約）				龍﨑 圭一郎	
歯　科（予約）		午前・午後	平林 晋	平林 晋	平林 晋	平林 晋	平林 晋

※詳細についてはホームページをご確認下さい。

【ご案内】①**医療機関等からの紹介状をお持ちの方は、できるだけ事前に予約して頂くようお願いします。（平日 8：30 ～ 18：00）**

連携室直通電話：027-223-1373　FAX：027-223-1374

②一部の診療科については予約制、紹介型外来等を行っております。

◎予約制外来……原則、午後は和漢診療科以外の診療科は予約制となっています。終日予約（神経内科、耳鼻咽喉科、歯科、禁煙外来）

◎紹介型外来……乳腺・甲状腺（月曜日の午後・木曜日の午前）、耳鼻咽喉科（木曜日の午前）

③その他
- 消化器内科は、水曜日と金曜日は予約外来のみとなっております。
- 整形外科は、月曜日と金曜日の初診受付については、紹介状持参患者のみとなっております。
- 総合内科は、初診・紹介状持参患者のみとなっております。

※群馬ロイヤルホテルの駐車場も利用できます。（午前中のみ）

［ 交通機関 ］

①両毛線前橋駅下車、関越交通（土屋文明行き、群馬温泉行き）・群馬中央バス（高崎駅行き）に乗り「中央病院入口」下車徒歩１分

②上越線新前橋駅下車、群馬バス・群馬中央バス前橋駅行きに乗り「中央病院入口」下車徒歩１分

③関越道前橋インター、渋川新潟方面出口、国道17号約10分
高崎方面より来院される方は、群馬大橋を渡り終えた群馬大橋東詰か県庁南の信号が、右折できます。

ご来院の際は、気をつけてお越しください。

［ 地域医療連携室直通連絡先 ］

TEL. **027-223-1373**

FAX.027-223-1374

（平日 午前8:30～午後6:00）

［ 診療のご案内 ］

受付時間

午前8:00～午前11:00（耳鼻咽喉科のみ10:30まで）
午後1:00～午後4:00　※午後は原則予約外来です

休 診 日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）

独立行政法人 地域医療機能推進機構
JCHO Japan Community Health care Organization
群馬中央病院

〒371-0025 前橋市紅雲町1丁目7番地13号
Tel. 027-221-8165　Fax. 027-224-1415　gunma.jcho.go.jp